

非営利団体における社会サービスの提供に関する一考察

－カナダのバンクーバー市におけるゴードンネイバーフッドハウスの取り組み－

A Study on offering the Social Services in Non-profit Organization

－In the Case of Gordon Neighbourhood House in Vancouver, Canada－

キャリアセンター

岡野 聡子

OKANO, Satoko

Career Center

キーワード：非営利団体，社会サービス，コミュニティ形成，ダイバシティ，ボランティア

Abstract : Neighbourhood Houses, referred to as Settlement Houses, are non-profit organizations that serve local residents, addressing needs specific to the neighbourhood. Neighbourhood Houses “function as central hubs for social programs and services and for community development and activities that strengthen neighbourhoods. They are places where everyone is welcomed, diversity is respected and cultures and beliefs are celebrated” (Association of Neighbourhood House of Greater Vancouver). With changing demographics in municipalities, many programs and services cater to immigrants and newcomers according to their needs.

The Gordon Neighbourhood House taken up in this paper is in the Vancouver West End area. The social programs and services of 27 (2010/9) are carried out in the Gordon neighbourhood house and not only a local resident but a foreign students, a college and a university students, and the temporary residents provide service as volunteer staffs.

In order to perform demand and supply of social services smoothly, a support organization of each field has been made. Also in Canada, the support organization for social services is divided according to the field in many cases. However, offer of the social services for all the people in the Gordon neighborhood house can be estimated to be unique in Canada. The measure of the Gordon neighbourhood house has been realized by putting on effort at formation of the local community rather than the height of the quality of service or a program.

Keywords : non-profit organization, social services, community formation, diversity, volunteer

1. はじめに

今年で創設69年目を迎えるゴードンネイバーフッドハウス（以下，GNH）は，カナダのバンクーバー市ウエストエンド地区に位置し，育児支援や高齢者のケア，雇用支援，識字教室など日常生活に必要な社会サービスやプログラムの提供をし続けてきた非営利団体である。対象者は地域住民だけでなく，留学生や旅行者といった短期滞在者らも含めたすべての人々であり，提供されているサービスやプログラムは約30種類に及ぶ。ネイバーフッドハウスと呼ばれる団体はセツ

ルメント活動を源流に持っており，ヨーロッパ諸国やアメリカなど世界中に点在している団体でもある。それぞれのネイバーフッドハウスが行っている事業は地域によって異なるが，そこで取り組まれるサービスやプログラムは，個人と個人を結びつける「ハブ」のような役割を担い，活動の第一目的は「人々の交流を育む場の形成」である。

本稿では，カナダにおけるネイバーフッドハウスの成り立ちを歴史的背景から概観し，筆者が2010年3月1日～15日および2010年8月13日～9月11日の期間に参与観察をしたGNHを事例として取り上げ，その団

体の取り組みや活動内容を考察したい。(なお、本稿におけるカナダの為替レートは2011年12月18日現在の75円で計算している。)

2. 先行研究

ネイバーフッドハウスとは、セツルメントハウスやコミュニティハウスとも呼ばれている地縁型コミュニティである。一般的にネイバーフッドハウスが対象としている区域の決め方には、ルールや定義などがあるわけではなく、道路や線路、湖などの地理的条件や人工的境界によって定められる場合が多い。また、サービスやプログラム内容は、地域が持つ特性(地理的条件、産業、経済、人種、所得階層など)に応じて多様に展開されているが、対象者を限定しないという共通点を持っている。

カナダにおけるネイバーフッドハウスの先行研究では、Cavers et al (2007) の *“How Strangers Become Neighbours: Construction Citizenship Through Neighbourhood Community Development* (見知らぬ人が隣人となる時: ネイバーフッドコミュニティディベロップメントを通じた市民社会の構築)” やYan (2004) の *“Bridging the Fragmented Community: Revitalizing Settlement Houses in the Global Era* (断片化されたコミュニティへの橋渡し: グローバル時代におけるセツルメントハウスの復興)”, Sandercock (2003) の *“Cosmopolis II: Mongrel Cities in the 21st Century* (コスモポリスII: 21世紀のモングレレルシティ)” らの研究を取り上げることができる。彼らは、地域住民の基本的生活ニーズを充足して調節している。ネイバーフッドハウスにおける社会関係資本の構築の在り方について注目をした。特にYan (2004) は、セツルメント運動を源流に持つネイバーフッドハウスが、育児支援や高齢者のケア、雇用支援といった社会サービスの内容およびその提供方法の策定、コミュニティビルディング、ソーシャルアクションといったコミュニティを基盤として展開する多様な活動機能を統合させたことで、人々の中に「コミュニティを共有する」という感覚を芽生えさせ、また、その感覚を複数世代にまたがって育むことに成功したと高く評価している。

3. カナダにおけるネイバーフッドハウスの変遷

カナダでは植民地時代から連邦政府が結成(1867)されるまで、イギリスやアメリカと同じように公的主

体による生活保障はなく、住民の生活問題(貧困、疾患、保育、老齢など)への対応は主に教会による慈善事業が中心であった。19世紀後半から、先進諸国と同様に急速な工業化と都市化によってカナダの都市部では移民が増加し、教会の慈善活動だけでは対応がしきれなくなる中で、セツルメントハウスなどによる教会以外の団体の取り組みが台頭していった。

カナダにおけるセツルメント活動は、1889年にプレスベテリアン教会(長老派)の牧師とジャーナリストのマクドナルドが、イギリスのトインビー・ホールを訪問したことから始まる。マクドナルドは帰国後、トインビー・ホールでの活動が宗教的慈善活動ではなく、社会問題としてさまざまな階層や所属を超えた取り組みであることに感銘を受けたということ記事に書き残している。また時を同じくして、隣国アメリカではジェーン・アダムスがハル・ハウス(1889)を創設し、その活動の様子はカナダ国内でも大きく取り上げられ、その取り組みに影響を受けた多くの若者がハル・ハウスへと赴いてソーシャルワーク活動に従事した。カナダにおける最初のセツルメントハウスはトロント市にあり、サラ・リビー・カーソンによって創設された「エバングリア・セツルメント」(1902)である。彼女は、ニューヨークのYWCAやネイバーフッドハウスにてソーシャルワーク活動を40年近く行い、1897年から1918年の間にアメリカで3つ、カナダで7つのネイバーフッドハウスの運営を手掛けた人物として知られている。カナダでは1900年から1915年まで大量の農業移民を受け入れており、当時のネイバーフッドハウスでの取り組みは、移民のスムーズな入殖を目的とした支援が行われ、託児所などの家族支援サービスを中心に労働相談や識字教室が行われていた。

トロント市を中心として始まったセツルメント活動は、カナダ・ソーシャルワーカー教会(1928)の組織化に伴って急速に西部カナダへと広がった。この時代、隣国アメリカに端を発した世界恐慌(1929)から、カナダの主要輸出品である小麦の国際価格が暴落したため、農業を主産業とするカナダ経済は重大な危機を迎えていた。国民の生活水準は低下し、1929年から1933年までに、国民1人当たりの所得は48%減少し、1933年の失業人口は65万人、労働人口の25%に達していた。多くの人々が公的扶助を受けるために地方自治体に殺到したが税収入の減収から財政的破綻を来たし、その結果、ソーシャルサービスの提供を行う民間団体の役割は、ますます重要視されるようになっていった。

一方で、バンクーバー市における最初のネイバーフッドハウスは、トロント大学でソーシャルワークを学んだ3人の女学生の提案によって1930年頃から展開された。彼女らは、西部カナダにおける孤児院の実態調査や運営評価をするためにバンクーバーを訪れ、その中でアレクサンドラ孤児院におけるソーシャルワークの検討を行った。そこで、ネイバーフッドハウスとして運営することを提案している。まず、働く親達のために託児所を設置して家族向けのレクリエーション活動をしなが、近隣住民が集まれるギャザリングプレイス（gathering place）作りに励んだ。1938年にアレクサンドラネイバーフッドハウス（Alexandra Neighbourhood House）を創設し、3年後の1941年にはバンクーバー市ネイバーフッドハウス協議会（Association of Neighbourhood Houses of Greater Vancouver（以下、ANHGV））を立ち上げてブリティッシュ・コロンビア州における最も古い非営利団体として登記された。ANHGVが創設された時代背景として特筆しておくことは、第二次世界大戦である。戦時中、カナダは兵器の供給国として軍需工業を中心に急速に発展を遂げ、労働力が農業事業から工業事業へと移行し、都市生活者の生活水準は向上したが、人口の都市集中化に伴って構造的・慢性的失業、家族崩壊、貧困、非行の発生をもまねく結果となったため、福祉施策の必然性に迫られた。ブリティッシュ・コロンビア大学も時代の必然性に呼応するようにソーシャルワーク学部を1944年に開設し、ANHGVは多くの大学生ボランティアを受け入れた。大学側がANHGVのサービスやプログラム策定にも関わり、無料の法律相談や賃貸住宅におけるトラブルの相談などの窓口を作るなど、大学機関とANHGVとの連携が強化されたのはこの時期である。

第二次世界大戦後は、マーシュ報告（Marsh Report）に基づいて社会保障が急速に制度化され、社会福祉分野ではセーフティネットの概念に基づいて公的社会サービスの担い手として民間団体の仕組みが制度化されていった。また、増加する多民族に対する施策として多文化主義法（Multiculturalism）が1971年に導入され、ソーシャルサービスに関する取り組みにおいても、施設入所中心の治療型福祉サービスからコミュニティ・ベース・ケアを中心とした予防型社会サービスへと大きく転換した。また、1987年になると、連邦政府の多文化主義政策（Multiculturalism Policy）によって文化的・民族的民間団体への政府からの補助金は年々拡大され、その多くがソーシャルサービスの提

供に対して行われた。ANHGVも移民プロジェクトや低家賃住宅建設プロジェクトへ参加し、この際、新施設の立ち上げの費用約325万ドルを連邦および州政府から受け取っている。多文化主義政策の展開は、地域における民間団体の社会サービスの役割を強化したといえるだろう。

2011年12月現在では、ANHGVは8つのネイバーフッドハウスと1つのキャンプ施設から成り立っている。それぞれのネイバーフッドハウスはANHGVに所属をしているが、独立した財源を持っており、各地域の特性を活かした運営がなされている。また、バンクーバー市にはANHGVに所属するネイバーフッドハウス以外にも5つのネイバーフッドハウスが存在している。ANHGVに所属するネイバーフッドハウスの利用者は、年間10万人を超え、総計300を超えるサービスやプログラムを人々に提供している。2010年現在、登録ボランティアスタッフの総数は約8,000人にのぼっている。ネイバーフッドハウスは、カナダ全土では100ヶ所以上あり、ブリティッシュ・コロンビア州には20ヶ所以上が存在しているといわれている。

4. ネイバーフッドハウスの特徴と役割

ネイバーフッドハウスの特徴と役割を“*Association of Neighbourhood Houses, “Association of neighbourhood houses vancouver present and past - A report on the History and the role of Neighbourhood Houses, and background information on the Association of Neighbourhood Houses of Greater Vancouver-”*（バンクーバー市ネイバーフッドハウス協議会の現在と過去－ネイバーフッドハウスの役割およびバンクーバー市ネイバーフッドハウス協議会の歴史）から抽出し、以下にまとめた。

①サービスやプログラムの内容における特徴

ネイバーフッドハウスにおけるほとんどのサービスやプログラムは、全ての人々が利用できるように無料もしくは低価格で設定されている。ネイバーフッドハウスにおける代表的なコミュニティサービスやプログラムは、小学生のための学童保育やサマーキャンププログラム、若者のための職業訓練プログラム、働く親のための託児所や親教育プログラム、高齢者のためのサービス、移民者の社会的孤立を防ぐためのプログラム、健康増進のためのレクリエーション活動などである。

②サービスやプログラムの提供方法の特徴

サービスやプログラムの提供は、地域に住む人々によって担われている。その提供方法の特徴は、教会や医者などがクライアントに対して行う専門的な援助ではなく、一人の友人としての非専門的な手助けである。

③人々の親睦を深めるための「ハブ」としての役割

ネイバーフッドハウスは、地域に住む全ての人が気軽に立ち寄れる「(自宅の)リビングのようなもの」であり、その居場所を通じて人々が出会い、個人・家族・地域が持つ力を「つなぎ合わせて補強する」という役割を担っている。日常生活を営む上で必要とされるサービスやプログラムは、人々の親睦を深めるために用意されたものである。

④地域交流拠点としての役割

ネイバーフッドハウスは地域活性化やソーシャルアクションを起こすための拠点としての役割も担っている。ソーシャルアクションの代表例としては、都心部における低家賃住宅の開発や移民に対する支援施策、地域の治安維持などがあげられる。また、コミュニティの中にある課題を探るために、サービスやプログラム策定者（コミュニティディベロッパー）が施設の利用者や提供者を定期的に行われる理事会に引き入れて計画を作っている。

以上のようにネイバーフッドハウスの特徴と役割を述べたが、最も重要な点は「自宅のリビング」のような場所、すなわち誰もがリラックスができる居場所を通して、人と人とが親睦を深めやすい環境を作ることである。日常生活を営む上で必要とされるサービスやプログラムの提供は、あくまでも人々を集めるための仕組みのようなものであり、サービスやプログラムの質にこだわったものではない。年齢や性別、人種、社会的役割などを越えた人と人とがネイバーフッドハウスで出会い、ある人は困っている人の助言者ともなるだろうし、カードゲームの相手ともなり、一緒にコーヒーを飲みながら他愛もない話をしながら過ごす。その日常生活において、人と人との基本的な信頼関係を構築してゆく場としての「人々の交流」の役割が最も期待されているのである。

5. ゴードンネイバーフッドハウスの概要

GNHは、ブリティッシュ・コロンビア州バンクーバー市のウエストエンド地区に位置している。バンクーバー市は23の区域に分かれており、ウエストエンド地区はダウンタウンの北西側、全面ガラス張の高層ビルが立ち並ぶビジネス街（Central Business District (CBD)）と広大な原生林をそのまま残したスタンレーパークとの間に存在している。その中でも、GNHが対象としている区域は、北のジョージア通り、東のバラード通り、西のデンマン通り、南のイングリッシュベイ沿いである（図1の赤色部分）。この地区は、ダウンタウンの北東に位置するイーストサイド地区とは対照的に、1890年代頃から中流階級のためにビクトリア朝の住宅が建設され始めて以後、富裕層向けの閑静な住宅街として開発がなされた地区である。



図1

(出所) http://www.blockwalk.com/vancouver/downtown/map_downtown.htm

※ウエストエンド地区は204haであり、東京ディズニーランド（51ha）の4個分の規模である。

GNHが対象とするウエストエンド地区は人口密集率が高く、80.5%の居住者が賃貸住宅に住んでいる。2006年度の国勢調査によると、ウエストエンド地区における居住者の年齢構成は、19歳以下が6.7%、20～39歳が48.6%、40～64歳が33.3%、65歳以上が11.4%であり、20～64歳が8割以上を占める。世帯構成では、総世帯数2万8955世帯のうち、単独世帯が59.1%、親族世帯が30%、非親族からなる世帯が10.9%である。非親族からなる世帯とは、同棲中のカップルや友人と一緒に部屋を借りて住んでいる世帯である。また、2万5000カナダドル（187万5000円）以下の低所得者率

は32.3%であり、バンクーバー市全体（26.6%）と比べて5.7ポイント高い。また、留学生や大学生、ワーキングホリデープログラムの利用者、永住権取得希望者などの一時滞在者も多いため、個人の所得レベルはさまざまであるといえる。

GNHでは「全ての人が利用できること」を目的としているため、低所得者に対する配慮を最も重視し、サービスやプログラムの利用料金は無料から最大でも5ドル（375円）に抑えている。アウトオブスクール（学童保育）などのプログラムは、週5日で270ドル（20,250円）の費用が必要となるが、州政府やGNHからの助成金があるため、それらを利用することができる。GNHの利用者は年間約1万人であり、利用をするにあたって必要となるメンバーシップの発行を受ける者は毎年400人にのぼっている。

ニューカマーの人口は年々増え続けているため、それぞれの文化の差異や類似点を受け入れるという多文化主義的アプローチを実践し、人々が互いに尊重し合える関係を構築する目的から、以下のようなミッションステートメントとダイバシティステートメントが掲げられている。

【ミッションステートメント】

- ①コミュニティサービスの提供をボランティア主導で行う。
- ②私たちの任務は、私たちの地域をより住みやすい場所にするものである。
- ③私たちの目標は、人々が自分たちの生活を喜んで受け入れることを可能にし、そして自分たちの地域コミュニティを強化することである。
- ④私たち（隣人）が自発的な行動だけで取り組むことができない問題を抱えた時、GNHはその問題に対する必要な資源を確保するための手助けやサポートを提供することである。
- ⑤私たちの課題は、さまざまな人々の変化するニーズに合った新しいプログラムやサービスを開発し、多様なコミュニティと共に活動することである。

【ダイバシティステートメント】（下線部もそのまま引用）

- ①私たちは、全ての人種や宗教、文化、能力、経済レベルにいる子どもや若者、大人、高齢者を受け入れる。
- ②私たちは、多言語を話す。
- ③私たちは、全ての性的志向の男性や女性を受け入れる。

④私たちは、多様性を尊重する。

⑤私たちは、私たちの会員や理事会、ボランティアスタッフにおいて地域に住む人々の多様性を反映するように努力する。

⑥私たちは、全ての近隣住民を尊重する。

⑦私たちは、私たちの家に来る全ての人（サービスを与えるか、もしくは受け取る全ての人）が、同じ敬意をここで出会う全ての人々に示すことに期待する。

ダイバシティステートメントの最後には、「それゆえに、私たちは私たちの協会やコミュニティにおける全てのの包摂的な取り組みを促進させ、活動し続ける」という言葉で締めくくられている。ダイバシティステートメントは、GNHやANHGVに限ったものではなく、コミュニティセンターや他の非営利団体にも見られる。しかしその内容は、多文化主義の歴史を取り上げてダイバシティとは何かを述べるものや、先住民族への敬意を表すものとして掲げられるなど様々である。GNHのように「ALL（全ての）」という言葉は何度も利用し、誰にとっても分かりやすく親しみやすい言葉でダイバシティを表現しているところは、この団体が第一目的としている「人々の交流の場の形成」を明瞭にあらわす重要なキーワードであると思われる。

（１）施設の概要

GNHの1階部分には、受付事務所とスタッフ用の4つの部屋、サービスやプログラムの提供を行うための多目的室、インターネットコーナー、8人掛けのソファが設置されたリビング、キッチン、トイレがある。2階部分には、リサイクルストア、雇用プログラムを提供している受付事務所、雇用プログラムを行うための部屋、自助グループやサポートグループに貸出するための部屋が2つ、法務・税務関係の図書が本棚に並んでいるスタッフ用のミーティングルームがある。3階部分には2つのロフトがあり、一つはスタッフの部屋、もう一つはイベントなどで利用する看板などの倉庫として利用している。

開所時間は、月曜日から水曜日の9時～21時まで、木曜日から土曜日は9時～16時30分である。休館日は日曜日とパンフレットに書かれているが、休館日も17時～19時までの間、アルコール依存症やドラッグの問題を抱えた自助グループや、ブリティッシュ・コロンビア州精神保健および依存症サービス（BC Mental Health & Addiction Services（BCM HAS））のスタッフがうつ病や軽度精神疾患、薬物依存の問題を抱えた

人々のために茶話会を開いている。

(2) 提供されているサービスとプログラムの内容

GNHでは3ヶ月に一度、パンフレットを発行している。2010年9月発行のパンフレットによるとGNHの事業は、①一般的なプログラム (General Programs), ②乳幼児プログラム (Infant & Toddler Programs), ③子どもと青少年プログラム (Children & Youth Programs), ④語学クラス (Language Classes), ⑤雇用サービス (Employment Services), ⑥協働プログラム (Co-Sponsored Programs), ⑦シニアプログラム (Older Adult Programs) と7つのカテゴリーに分けられている。それをもとにして、サービスとプログラムを対象者別に下記の(表1)にまとめた。サービスとプログラムは、運営会議による議決と予算の関係によって毎年見直しが行われている。

表1

	対象者	S/ P*	サービス・プログラム名
1	全ての人	S	コミュニティ掲示板サービス
2		S	フリー・インターネット
3		S	フリー・プリンティング
4		S	法律相談
5		S	コーヒーサービス
6		S	ドナズアティック リサイクルストア
7		P	英会話クラブ
8		P	絵画クラス
9		P	スペシャルイベント
10	0～5歳の 子どもと養育者	P	クリエイティブプレイタイム
11	0～6歳の 子どもと養育者	P	ファミリープレイス
12	5～10歳の青少年	P	アウトオブスクールケア
13	5～11歳の青少年	P	サマーデイキャンプ
14	8～11歳の青少年	P	ホームワーククラブ
15	9～12歳の青少年	P	プレティーンガールズ
16	9～15歳の青少年	P	プレティーンユースグループ プログラム
17	15～30歳まで	P	ユースサーチ (若年者雇用プログラム)
18	30歳以上	P	雇用プログラム
19	シニア	P	シニアプログラム ①ランチサービス, ②太極 拳, ③PCトレーニング, ④ 外出プログラム, ⑤シニアイ ベント

20	高齢者・低所得者	S	確定申告サービス
21	ロシア・スペイン 語を母語とする者	S	通訳兼情報照会サービス
22	シングルマザー	P	シングルマザー サポートグループ
23	12～36ヶ月の子を 養育する親	P	マザーグースプログラム
24	0～5歳までの 子を養育する親	P	ノーバディズパーフェクト プログラム
25	ロシア・東ヨー ロッパの女性	P	ロシア女性のサポートグループ
26	スペイン語を母語 とする女性	P	スペイン語を母語とする女性の サポートグループ
27	メンタルプロブレ ムを持つ者	P	ザ・ネスト

*S/P…S=サービス, P=プログラム

2010年度は、27種類のサービスとプログラムを提供している。対象者が分かれて提示されているのだが、実際には柔軟に対応されている。例えばファミリープレイスは0～6歳の子どもと養育者を対象にしているが、予約がなくても気軽に立ち寄れるドロップインシステムを採用しているため、利用者が少ない場合は7歳以上の子どもやその養育者も参加が可能である。また、筆者はボランティアスタッフとしてシニアプログラムの①ランチサービスと④外出プログラムの手伝いをする中で、ランチサービス時には韓国人の親と二人の小学生や40代の中国人男性を見かけ、外出プログラムにも親子（親50代、子30代）の参加者がいること、利用者に対する制限などは実際のところないことを確認した。ロシア語・スペイン語を母語とする者を対象に通訳兼情報照会サービスを行っているが、ロシア語・スペイン語のできるスタッフ以外にも、通訳のできるボランティアスタッフがおり、それらを合わせると16の言語に対応している。

(3) 運営資金について

GNHはANHGVに加盟しているが、GNH独自の予算も持ちながら運営をしている。GNHの2010年度の年間予算計画書によると、総収入(表2)はCA\$1,512,962(1億1347万2150円)であり、総支出(表3)はCA\$1,516,880(1億1376万6000円)である。

収入内訳で主なものは、連邦政府からの補助金CA\$513,791(3853万4325円)、BC州政府からCA\$558,504(4188万7800円)、バンクーバー市からCA\$58,000(4350万円)である。総収入における行政資金(連邦政府やBC州政府、バンクーバー市)の占める割合は全体の75%になる。サービスやプログラムの料金収入は

CA\$115,425 (865万6875円) (全体の7.6%), ファンドレイジングイベントおよび民間団体や企業による寄付収入はCA\$112,212 (841万5900円) (7.4%), 共同募金団体からの助成金がCA\$79,595 (596万9625円) (5.2%), カジノからの助成金がCA\$57,800 (433万5000円) (3.8%), 貸し部屋の収入がCA\$10,000 (750万円) (0.6%), 積立の金利収入がCA\$6,085 (45万6375円) (0.4%), 個人寄付を含む雑収入がCA\$1,550 (11万6250円) (0.1%) の順になっている。

表2

総収入 (Revenue) (CA\$)	
積立金の金利 (Interest Income)	6,085
サービスの利用料金 (Fees for Service)	115,425
貸し部屋の収入 (Rental Income)	10,000
連邦政府 (Federal Revenue)	513,791
州政府 (Provincial Revenue)	558,504
バンクーバー市 (City of Vancouver)	58,000
ユナイテッドウェイ (United Way)	79,595
カジノ (Gaming)	57,800
ファンドレイジングおよび企業や民間団体からの寄付 (Fund Raising & Other)	112,212
個人寄付を含む雑収入 (Miscellaneous)	1,550
総収入額 (Total Revenue)	1,512,962

出所: "Statement of revenue and expenditure Gordon Neighbourhood House for 4 months ended 7/31/2010" から, 筆者作成

次に, 総支出を見てみよう。総支出のうち返納費分を差引いた総人件費はCA\$1,123,149 (8423万6175円) であり, 支出全体の74%を占めている。次に割合を占めるものは, サービスやプログラム提供やボランティアに関する費用 (プログラムと食品購入費, レンタカーなどの運搬費, ボランティアに関する支出) であり, 支出全体の13.6%である。

総収入における行政資金が75%を超えていることに注目するならば, GNHが政府の社会政策に基づく事業 (雇用プログラムなど) に積極的に補助申請をして獲得した部分が大きいといえる。また, 個人寄付などの雑収入は総収入の中で一番低い, 地域住民達ハリスサイクルストアへ物品の寄付をしたり, ボランティアとして活動に参加をしているため, 予算書の中では数字として現れない部分もあることを特筆しておく必要があるだろう。

表3

総支出 (Expenditures) (CA\$)	
人件費 (Salaries and Benefits)	1,131,854
建物および光熱水料金等の管理費 (Building Occupancy)	142,409
事務所諸経費 (Office Expenses)	27,147
人事諸経費, 職員教育費 (Recruitment, Staff Development)	12,643
ニュースレターなどの広報活動費 (Public Relations)	17,085
法務・財務サービスの購入費 (Purchased Services)	117,345
ボランティアに関する支出 (Volunteer Expenses)	1,800
レンタカーなどの運搬費 (Transportation)	31,203
プログラムと食品購入費 (Program and Food)	174,293
雑支出 (Miscellaneous Expense)	3,917
固定資産税 (Capital Expenditure)	4,819
人件費の返納費 (Salaries & Benefits recoveries)	(8,705)
部屋の共有 (Space Sharing)	(29,000)
会計費 (Accounting Fees)	(39,929)
その他プロジェクトの返納費 (Other Project Recoveries)	(70,000)
総支出額 (Total Expenses)	1,516,880

出所: "Statement of revenue and expenditure Gordon Neighbourhood House for 4 months ended 7/31/2010" から, 筆者作成

(4) 活動を支えるボランティアスタッフの存在

GNHにおけるサービスやプログラムの提供は, ボランティアスタッフが担っている。ボランティアの中には利用者としてGNHを活用している者がいる一方で, 利用者からGNHのボランティアスタッフになる者もあり, 利用者とボランティアとの間には, 「利用者=ボランティアスタッフ」といった役割固定のない相互関係を見ることがもできる。

GNHが発行している "Volunteer Coordination and Orientation Manual (ボランティアコーディネーションとオリエンテーションマニュアル)" (2009) に記載されているボランティアポリシーには, 「GNHにおけるボランティアスタッフは, アイデアやリーダーシップ, 熱意, 社会的資源, 時間, 創造的なひらめき, 人的ネットワークの供給者であり, それはネイバーフッドハウスの方向性をも生み出している。」と書かれており, そこからはボランティアスタッフの能動性をうかがうことができる。ボランティアスタッフは, 彼らのスキルや経験, 利益などを考慮に入れて, 理事会での発言や運営方法, ファンドレイジング, サービス提供の全てのレベルに「参加」をすることができると明

記されており、ボランティアの配置においても「合意」に基づいて行われることとされている。

また、ボランティアの権利（Volunteer Rights）には次の6つの事柄が提示されている。

【ボランティアの権利（Volunteer Rights）】

- ①楽しむこと
- ②GNHにとって価値のあると思う事や、ボランティアをするために重要だと思うことがあれば伝えること
- ③適切な方針やボランティアをするにあたって必要なトレーニングが与えられること
- ④GNHチームのメンバーとして扱われること
- ⑤就業をしている人の仕事に役立つように、ボランティアでのパフォーマンス評価を定期的に受け取ることができること
- ⑥ボランティアをするにあたって何らかの支出をする際には、GNHと交渉をしてその金額を受け取ること

ボランティアの古典的特徴といわれる利他性や無償性などの要素よりも、特に⑤の「就業をしている人の仕事に役立つように、ボランティアでのパフォーマンス評価を定期的に受け取ることができる」というメリットが明記されているところは、ボランティアをする側の動機を高めて促進させる要因として非常に合理的であるといえる。その他にも、「GNHにてボランティアをすることで得られる経験」や「GNHがボランティアに求めること」が各サービスやプログラムにおいて活動内容や目的が明確に提示されている。

GNHにてボランティアに参加する場合、受付にて登録用紙をもらい34項目に記入をする。その用紙をもとに、スタッフがボランティアに対して興味のある活動について質問をするが、より人手が足りないサービスやプログラムへの配属を促しているようであった。ボランティア活動終了後には、日付と名前、従事したサービスやプログラム名、時間帯を「Volunteer Log（ボランティア日誌）」に記入する。

参与観察を進めるうちにわかったことだが、登録用紙や「Volunteer Log」への記入は、主に一時滞在者である留学生や大学生を対象にしており、利用者が直接ボランティアスタッフになった場合には手続きをしない例も見られた。利用者が直接ボランティアスタッフとなった場合、それは日常生活の中で見られる手助けの延長であるようにも思えた。「専門性」の必要な

支援活動よりも「人との交流」を目的としているネイバーフッドハウスでは、日常生活を営む上で必要となるサービスやプログラムの提供に関して誰もが手助けをしやすい雰囲気がある。たとえば、ファミリープレイスプログラムにおけるディナー提供では、ボランティアが利用者からレシピを教えてもらって調理をすることもあれば、リサイクルストアにおける物品の料金設定などもボランティアと利用者が交渉をして価格を決めることもあることなどである（実際のところ、一日のうちでも価格変動は何度も起こる）。そうした現場を見てみると、GNHにおけるボランティアの存在とは、単なる提供者としての役割を遂行する者ではなく、ボランティアポリシーに書かれているような能動性を持った存在として捉えられ、その能動性から発現される行動が、結果的にネイバーフッドハウスの取り組みの方向性を生み出すことにつながっているのではないかと考えられる。

6. おわりに

社会事業の専門分化が進むにつれ、需用と供給をスムーズに行うために分野ごとの支援体制が整えられていった。すなわち、乳幼児の面倒を見るのは幼稚園や保育所といった託児施設であり、就労支援を行うのはハローワークであり、介護を行うのはデイケアサービスといった具合である。そうした時代の流れの中において、対象者を限定しないネイバーフッドハウスの活動は特殊であるといえるだろう。GNHが発行している“Social Programs & Services for the West End Guidebook”（ウエストエンドにおける社会プログラムとサービスのガイドブック）（2009）には、ウエストエンド地区にある64の非営利団体が掲載されているが、GNHのような日常生活を営む上で必要とされる社会サービスやプログラムの提供を展開しているところは見当たらない。

さて、最後に日本に視点を向けてみると、近年では地域福祉推進の一環として「近隣ネットワークの形成」という言葉が取り上げられ、近隣住民によるボランティアを主体とした相互扶助を復活させる仕組み作りに期待が寄せられている。もともと日本の農村社会には、講や組といった社会的な相互扶助の仕組みがあったが、都市化の進行に伴う家族形態の変化やライフスタイルの多様化、集団の価値よりも個人の価値が重視される中で、人と人との関係自体が希薄になったと言われている。しかしながら、行政主導の「近隣

ネットワーク」の内実は、子どもや高齢者、障がい者を中心とした、いわゆる福祉サービスの拠点づくりのようにもみえる。そうした中で、今日の日本社会において求められていることは、従来型の専門化された福祉サービスの拠点という枠組みではなく、地域に住む人々を結びつける基盤としての「交流の場」であり、そこから育まれる自然な相互扶助関係の新たな仕組み作りではないだろうかと思われる。

引用・参考文献

- 1) Andrew Armitage, (1996). *"Social Welfare in Canada Revisited - Facing Up to the Future - third edition"*, Oxford University Press, p.196
- 2) Allan Iruing, Harriet Parsons and Donald Bellamy, (1995). *"Neighbours"*, Canadian Scholars' Press Inc, p.11-12
- 3) Cavers, V. with Carr, P. and Sandercock, L. (2007). *"How Strangers Become Neighbours : Construction Citizenship Through Neighbourhood Community Development"*, Metropolis British Columbia Working Paper Series No.07-11
- 4) Chaskin,R.J.,Joseph,M.L.,&Chipenda-Dansokho,S., (1997). *"Implementing comprehensive community development : Possibilities and Limitations"* National Association of Social Workers, 42:5, p.435-444
- 5) Fleras, Augie. (2005). *"Social Problems in Canada (fourth edition)"*, Pearson Education Canada Inc.,Toront,Ontario
- 6) Guest, Dennis. (1997). *"The Emaergence of Social Security in Canada (third edition)."*, Vancouver : University of British Columbia Press
- 7) Hick, Steven F. (2004). *"Social Welfare in Canada"*, Thompson Educational Publishing, Inc
- 8) John P. Kretzmann,John L. Mcknight, (1993) *"Building communities from the inside out"*, ACTA Publications, p.172-174
- 9) Keith Banting and Will Kymlicka. (2006). *"Multiculturalism and The Welfare State - Recognition and Redistribution in Contemporary Democracies-"*, Oxford University Press
- 10) Kennedy, Albert, Farra, Kathryn, et al. (1935). *"Social Settlements in New York City : Their Activities. Policies, and Administration"* New York: Columbia University Press, p.5

- 11) Majewski, J., (1986). *"The industrial revolution working class poverty or prosperity"*, Foundation for Economic Education, 36:7
- 12) Sandercock, L. (2003). *"Cosmopolis II: Mongrel Cities in the 21st Century."*, Great Britain : MPG Books Ltd.
- 13) Yan, M. C. (2004). *"Bridging the Fragmented Community: Revitalizing Settlement Houses in the Global Era"*, Journal of Community Practice, 12 (1/2) p.51-69
- 14) Yan, M.C. and Lauer, S. (2006). *"Bridging newcomers in the neighbourhood scale: a study on settlement / integration roles and functions of Neighbourhood Houses in Vancouver."*, Final Report School of Social Work and Family Studies.UBC
- (2008) "Social Capital and Ethno-Cultural Diverse Immigrants : A Canadian Study on Settlement House and Social Integration", Journal of Ethnic and Cultural Diversity in Social Work, 17:3, p.229-250
- 15) 仲村優一・一番ヶ瀬康子編著 (2000)『世界の社会福祉アメリカ・カナダ』旬報社, p.296-485
- 16) 日本カナダ学会編 (2008)『史料が語るカナダ』有斐閣

参考資料

- 1) Association of Neighbourhood Houses, *"Association of neighbourhood houses vancouver present and past - A report on the History and the role of NeighbourhoodHouses,and background information on the Association of Neighbourhood Houses of Greater Vancouver-"*, Association of Neighbourhood House of Greater Vancouver
- 2) Gordon Neighbourhood House, (2009). *"Volunteer Coordination and Orientation Manual"* Gordon Neighbourhood House, p.6
- 3) Gordon Neighbourhood House, *"Gordon Neighbourhood House - Your West End Neighbour-"*
- 4) Gordon Neighbourhood House, (2010) *"Statement of revenue and expenditure Gordon Neighbourhood House for 4 months ended 7/31/2010"* Gordon Neighbourhood House